

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	橋本市立隅田中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	1	10	20
生徒数	101	108	114	3	326	

研究の概要

1. 研究主題

主体的・創造的な行動のできる生徒の育成
一人ひとりに「確かな学力」を定着させるきめ細かな取組を進める

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 1年・数学（少人数・TT）
生徒の理解度に差が出やすい教科であり、基礎・基本を確実に定着させるため
- ・ 1年・英語（少人数・TT）
中学校で初めて学習を始める教科であり、基礎・基本を確実に定着させるため
- ・ 全学年・国語
すべての教科学習の土台となる教科であり、系統だった指導が大事であるため
- ・ 全学年・学力定着の取組（漢字力・計算力・英語の単語力）
「読み」「書き」「計算」が学力向上の根幹と考え、系統だった取組が大事であるため

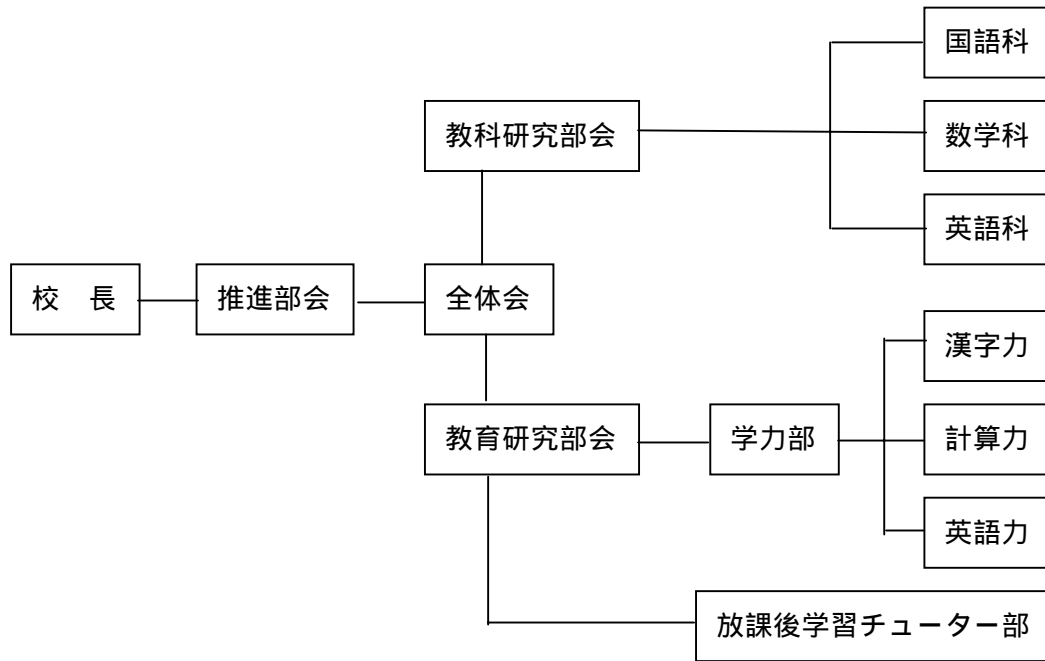
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	テーマ 主体的・創造的な行動のできる生徒の育成 一人ひとりに「確かな学力」を定着させるきめ細かな取組を進める 研究の見通し（仮説）
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数学科・英語科での教材開発、授業研究、評価研究を進めることにより、一人ひとりに「確かな学力」を定着させることに繋がるであろう。 ・ 国語科でコミュニケーション能力を育成する取組を進めることにより、一人ひとりに「確かな学力」を定着させることに繋がるであろう。 ・ 「漢字力・計算力・英語の単語力」をつける取組をすすめることにより、一人ひとりに「基礎的・基本的な力」を定着させることに繋がるであろう。 研究の内容・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本校では平成13年度から単学年ではあるが、数学科と英語科でTT及び少人数での学習を行ってきたが、これらの成果を踏まえ、さらに生徒の理解や習熟の程度に応じたきめ細か

	<p>な指導に取り組むことを目指して、平成15年度からは1年生の数学科と英語科において習熟度別授業を取り入れた指導形態を試みてきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科では、コミュニケーション能力を育成する（・自分の考えていることを相手に伝える力をつける・書く意欲を喚起する・読み取ったことを伝え合い、自分の読みを豊かにする）指導法と評価の研究を行った。 ・ 「漢字力・計算力・英語の単語力」をつける取組を進めていくための学習教材の開発を行った。 ・ 総合的な学習の授業を中心に1年生から体験活動等を積極的に取り入れ、学ぶ目的や何のために学ぶのかを掴ませ、生徒に学ぼうとする意欲と基礎・基本を身につけさせる取組を行ってきた。 ・ 不登校生徒及び授業に参加できない生徒の学力保障の取組を行った。 ・ 放課後学習チューターを活用して、学力の補充が必要な生徒や更なる向上を目指す生徒に補充学習を行った。
--	--

平成16年度	<p>テーマ 主体的・創造的な行動のできる生徒の育成 一人ひとりに「確かな学力」を定着させるきめ細かな取組を進める 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学科・英語科での教材開発、授業研究、評価研究を進めることにより、一人ひとりに「確かな学力」を定着させることに繋がるであろう。 ・ 国語科でコミュニケーション能力を育成する取組を進めることにより、一人ひとりに「確かな学力」を定着させることに繋がるであろう。 ・ 「漢字力・計算力・英語の単語力」をつける取組をすすめることにより、一人ひとりに「確かな学力」を定着させることに繋がるであろう。 <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学科と英語科では、平成15年度の取組を生かして、さらにTT及び少人数授業を含めた生徒の理解や習熟の程度に応じたきめ細かな指導に取り組む。また、より評価を生かした指導の改善にも取り組む。 ・ 少人数編成（習熟度別）は数学科と英語科に限りながらも、個に応じた指導体制・指導方法の工夫、教材開発、評価を生かした指導改善等を全ての教科で行う必要がある。 ・ 国語科では、コミュニケーション能力を育成する指導方法と評価の研究を継続して推し進める。 ・ 「漢字力・計算力・英語の単語力」をつける取組を進めていくための学習教材を、全校的に個に応じた学力向上に生かしていくための、学習形態（時間）の工夫実践を行う。 ・ 不登校生徒及び授業に参加できない生徒の学力保障の取組を、より個に応じたきめ細かな取組となるように工夫と条件整備を行う。 ・ 放課後学習チューターのより効果的な活用方法を工夫し、補充指導に取り組む。
--------	--

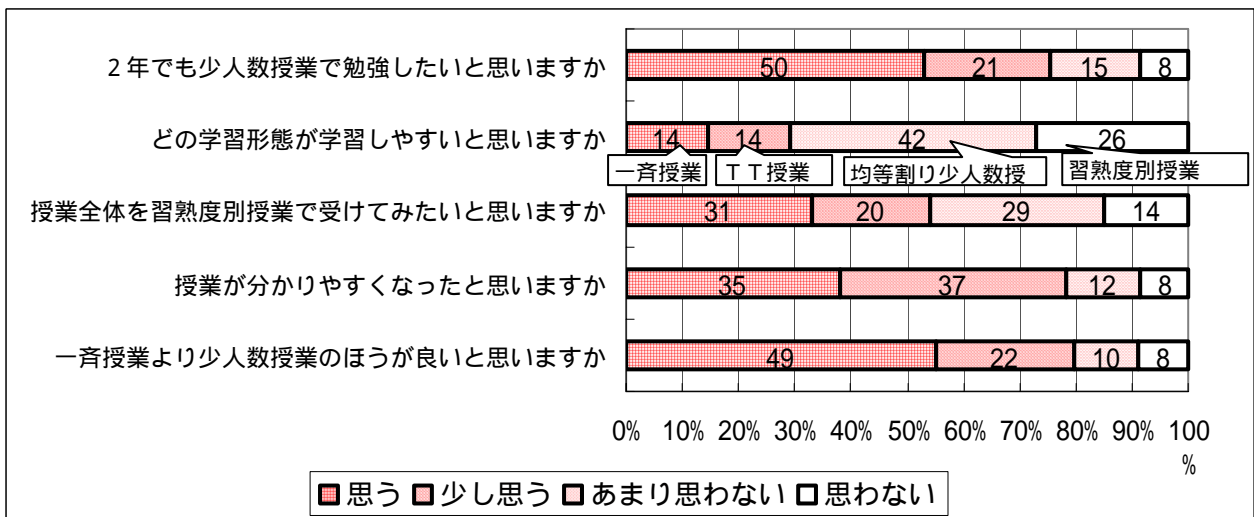
(3) 研究推進体制



本校では、生きる力に結びつく学力として「読み」「書き」「計算」が大切であるという観点から、**教科研究部会**では国語科・数学科・英語科を中心に授業研究の取組を行い、**教育研究部会**では、『隅田中タイム』を使って、漢字力・計算力・英語の単語力を定着させる取組を各学級で実施する方法及び教材開発の研究を行ってきた。

平成 1 5 年度の研究の成果及び今後の課題

1 . 研究の成果



少人数授業（習熟度別授業）についての「生徒の意識調査」より

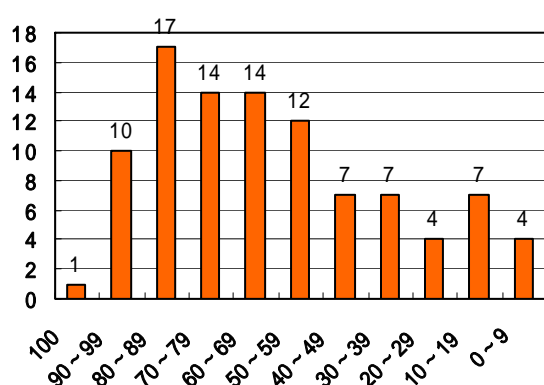
生徒は少人数での授業を望み（約 80%）、数学が分かりやすくなったと効果を認めている生徒が約 80%いる。また、習熟度別の少人数を望む生徒も過半数いる。しかし、「分かる方のクラスはいいけど、分からない方のクラスの人の気持ちはどうだろう。」という反対の意見を持つ生徒の気持ちや教育効果・教育条件等を充分考慮しての取組が必要であると考えます。

数学科における学力向上の成果について

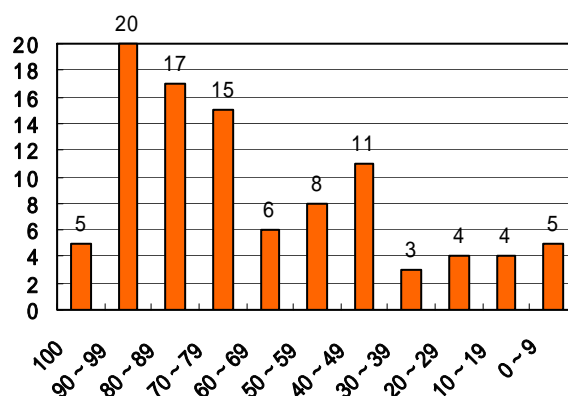
2 学期中間テストの平均点は 60.3 点であったが、期末テストの平均点が 67.0 点となり上昇している。これは中間テストで誤答率の高かった問題について、少人数授業で学習し定着を図り、類似した問題を期末テストで出題した結果、その問題の正答率が上昇した。そのため平均点が高くなったと考えられる。

また、個人でみると、期末テストで点数が上昇した生徒は、上位グループ（中間テスト 70 点以上）で 78%、中位グループ（40 点～69 点）で 68%、下位グループ（40 点未満）で 64% であった。上位グループの生徒の学力向上の割合の方が高かった。

1 年生 2 学期数学中間テスト
(平均点 60.3)



1 年生 2 学期数学期末テスト
(平均点 67.0)



英語科における少人数授業の取組

1 年英語科において、単元別に単元内容を考えて効果のある授業形態（TT 授業《ALT》・少人数授業）で授業を行い、一人ひとりの生徒にきめ細かく個別指導を行うことで、一人ひとりに密着した指導がなされ、基礎学力の向上が図られた。本年度の少人数授業の形態は機械的な均等割りで行った。

国語科のコミュニケーション能力を高める取組

本年度は、投げ入れ教材「短歌を楽しもう（僕の短歌・私の短歌）」の指導の中で、短歌の鑑賞・創作活動とともに、鑑賞、発表という機会を通して、伝え合うことの大切さ、「伝え合うために大切なことは相手意識である」ということに気づかせる授業を行うことでコミュニケーション能力の伸長が図られた。

個に応じた学力向上の学習教材の開発・形成

個々の「漢字力」「計算力」「英語の単語力」を高めるために、全校生徒が自分の力に合った級にチャレンジする本校独自の検定テストを全教職員が分担して作成できた。試行実施する中で、生徒自身も意欲的に取り組む姿勢が見られてきた。

不登校生徒及び授業に参加できない生徒の学力保障の取組

現在、不登校生徒 8 名・授業不参加生徒 5 名があり、本年度から以上の生徒に対する学力保障の取組として、「学習室」を設置し、特別時間割の授業と長期休業中には補充授業を行ってきた。現在までの「学習室」利用生徒の延べ人数は 8 名である。

2. 今後の課題

少人数授業の学習形態の工夫

指導者のより一層の到達目標と評価規準を明確にした指導方法の工夫が必要である。また、現在少人数授業を実施しているのは1年生だけで、確かな学力定着及び向上のためには単年度限りの少人数授業に終らない取組が必要である。

全教科での取組

数学科・英語科・国語科に限らず、全ての教科で個に応じた指導方法・指導体制の工夫、教材開発、評価を生かした指導改善等を行う必要がある。

個に応じた学力向上の学習教材の効果的な利用方法の工夫

『隅田中タイム』の時間を利用して活用していく予定であるが、時間割等を工夫して、より効果的な全校規模での取組の工夫・実践が必要である。

不登校生徒及び授業に参加できない生徒の学力保障のよりきめ細かな取組

今後、より個に応じたきめ細かな取組の工夫が必要である。

小学校との連携の強化

定期的に小学校と連絡会を持ち、相互の情報を交換するとともに、より一層互いに授業を公開し、小学校、中学校それぞれの授業方法を見直し、生徒にとってより良い連携を目指す。

学力把握のための学校としての取組

個々の学力実態をできるだけ詳細に調査し、基礎・基本の定着を図りながら、個々に応じた指導とその成果や課題を明らかにしていくため、今後、学力テスト（1年 国語・数学・英語 継続して追跡）を実施していく予定である。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

今後（平成16年度）、ホームページに学力向上フロンティア事業の取組状況を掲載し、成果を普及していく予定である。

(<http://www.edu.city.hashimoto.wakayama.jp/sudajs/>)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導	TTによる指導		
	その他			
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	